

Book

『子宮・卵巣がんと告げられたとき』

まつばらけい・大島寿美子 著

婦人科がん患者が医療者とよりよい関係を築きながら、自分が納得できる治療を選び取り、充実した人生を送るための選択肢を示すこと。これが本書のねらいでした。

しかし、がん治療に関する情報は膨大で、専門誌に掲載された医師の論文でさえ結論が一定していません。その中には質の低いものも多く見られます。ここに、患者が必要な答えにたどり着くのが難しい現実があります。そこで私たちは、資料と格闘し、取材を積み重ねながら、国内外の情報の中から現時点で最も信頼のおけるもの、患者が知っておくに値するものを慎重に選び出してきました……（本書「あとがき」より）

婦人科がんに関する一般向けの書籍の数は、現在、それほど多いとはいえません。特に、近年増加している卵巣がん、子宮体がんについての書籍は数が少なく、患者側の情報が不足してしまう原因の1つともなっています。



岩波アクティブ新書

『子宮・卵巣がんと告げられたとき』

定価 777 円(本体 740 円+税) 岩波書店, 2003

本書は、患者ネットワークや婦人科がんに関する情報を一般読者向けに分かりやすく解説し、患者が自己選択、自己決定を行なう際の情報源として、また医療者とのコミュニケーションをよりよくするためのツールとしての特長をもっています。

納得のいくがん治療を得るために、そしてその後の暮らしを少しでも質の高いものとするために、お薦めの一冊です。

(編集室)